

日本子ども学会（Japanese Society of Child Science）の代表として、学会の設立以来「子ども学」という考えが急速に普及し、関連する学科が多くの大学で設立されていることに期待を感じています。

しかし、子ども問題の多発、深刻化する現状は、我々の憂いを深めるものであり、子ども学の果たす役割はさらに重要性を増しています。この機会に、学会としての体制を確立するため、会則を検討すると共に、学会の学際性、環学性を強化するため、副代表を医学、教育、心理、工学などの分野から複数選び、子どもの生物学的ならびに社会的側面を包括的にとらえるための体制づくりを進めることにいたしました。

また、学会の基盤を確かなものにするため、会則の一部を改訂しました。

ここに、ニュースレターをお送り申し上げ、ご意見を伺うとともに、皆々様のご協力をお願い申し上げます。

日本子ども学会代表 小林 登

## 2005年度の活動報告

### 05/4/7 第9回運営委員会

第1回子ども学研究会実施報告  
2005年度の活動スケジュールについて  
第2回子ども学会議準備状況報告  
(於:東京大学)

### 05/6/9 第10回運営委員会

第2回子ども学会議、プログラム内容の検討  
(於:東京大学)

### 05/8/16 第11回運営委員会

第2回子ども学会議準備状況報告  
「チャイルド・サイエンス懸賞エッセイ」審査状況報告  
(於:東京大学)

### 05/9/1 学会誌『チャイルド・サイエンス vol. 2』発刊

### 05/9/3-9/4 第2回子ども学会議

テーマ「多文化社会と子どもたち」  
総会の実施(9/4)、第12回運営委員会の実施(9/4)  
(於:東京大学大学院医学系研究科教育研究棟)

### 05/10/28 第13回運営委員会

第2回子ども学会議実施報告  
第3回子ども学会議運営体制について  
会則の見直し、理事会組織について  
(於:お茶の水女子大学)

### 06/1/27 第14回運営委員会

2006年度の活動について  
学会運営組織づくりについて  
(於:お茶の水女子大学)

### 06/2/17 学会ウェブサイトリニューアルオープン

### 06/2 下旬

関西における「子ども学」関係大学の集いの企画  
(各校の都合により実施は4/8に延期)

- \* 第2回子ども学会議での総会(9/4)における「定例報告資料」と一部重複します。
- \* 2005年度の決算報告は、第3回子ども学会議での総会にて行います。

## 2006年度の活動予定

### 子ども学会議(学術集会)

第3回子ども学会議の開催(9/2,3 甲南女子大学にて)  
大会テーマ:「子ども学」の未来を考えよう

#### Message

多くの大学に「子ども学」に関する講座が誕生し始めています。内容を概観してみますと、従来の保育や幼児教育をはじめ、心理や育児学など様々な教科や教育内容が見られます。今後「子ども学」というコンセプトのもとに、教育内容に関して関心ある者が一同に会して議論を深め、その内容について共有できればと考えております。<大会推進委員長:稲垣由子(甲南女子大学教授)>

### 研究会の開催

2005年度は準備不足により研究会を開催できませんでした。  
今年度は、大学の講座や関係学会との連携や地域ごとやテーマごとの会の企画など、研究会を開催する仕組みを整えつつ、実施する予定です。例えば、関西「子ども学」大学の会をつくろうという試みが始まっています。

### 学会誌『チャイルド・サイエンス』

第3号の発刊(9月予定)。今号より会員全員への配布となります。第2回子ども学会議での講演内容や学会員からの寄稿などをもとに編集します。

### ニュースレターの発行

子ども学会議のご案内や学会誌送付時に同封する形でニュースレターを発行します。また、不定期な学会からの各種お知らせは「メルマガ」形式を検討し、タイムリーな情報提供を目指します。

### 一般向け書籍等の出版計画の立案

第3回子ども学会議に合わせて、「子ども学」の考え方を広く一般に知っていただくための刊行物の出版を企画しています。「なぜ子ども学が必要とされているのか」「子ども学は従来の子どもの研究と何が違うのか」「どのような新しい視点をもたらされているのか」などについて、複数の研究者の方々とまとめていく予定です。

### 運営組織の安定化

2005年度の総会以降、会則の見直し、予算配分、役員の選出等について運営委員会にて検討を重ねてきました。現在、前述のような学会活動の柱をつくり、それをもとに予算をたて、活動を推進いただく役員の選出まで終わっていますが、公開する水準には至っていません。2006年度の総会の際、これらについてご報告し、ご意見をいただけるよう、今後も検討を重ねていく予定です。

#### Message

子ども学会が発足してはや3年がたちました。子どもに関わる様々な分野の人がそれぞれの研究成果を発表する場を提供するだけでなく、子どもを取り巻く問題について、分野間を越えた広い視点の交換を通じてのみ可能になる解決法を見出すための場を創設することを目指して、運営委員で知恵を出しあってきました。

会員数も順調に増えており、今後は会員の皆様からより広く深いご意見をいただきながら、社会還元性のある学会にしてゆきたいと張り切っております。学術集会、研究会の開催に加えて、ニュースレターやホームページを通じて、会員の皆様からのご助言をいただきながら、誕生してまだ3年のよちよち歩きの「幼児」をしっかりとした足取りの「子ども」に育てて行きたいと思っております。

忌憚のないご意見、ご提案、ご批判をどしどしお寄せくださいますようお願い申し上げます。

<運営委員・副代表:榊原洋一(お茶の水女子大学教授)>

ご意見などございましたら学会事務局までメール・ファックスなどでお知らせいただければ幸いです

## 個人情報の利用目的・取り扱いについて

「賛助会員申込書」にご記入いただいた内容は、会員手続き、学会が主催・共催・後援する催しの各種ご案内、学会からの各種ご連絡、会員管理及び刊行物の送付を目的とし利用します。また、学会では会員の個人情報の流出・漏洩の防止、その他個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じるものとし、法令等に基づく正当な理由がある場合を除き、会員の同意なく利用目的外で利用したり、第三者に開示したりすることはありません。

### 「日本子ども学会」 登録変更届 ・ 学会誌注文用紙

(FAX03-3368-2822) 記入日： 月 日

所在地やご担当者の変更がございましたら、お手数ですが、事務局までご一報ください。

お名前 \_\_\_\_\_

会員番号 \_\_\_\_\_

変更箇所 *変更内容を具体的にご記入ください*

注文号 (○をつける)

VOL1 (1700 円・送料込)

YOL2 (1500 円・送料込)

注文冊数

VOL1 \_\_\_\_ 冊

YOL2 \_\_\_\_ 冊